

レ
ク
イ
エ
ム

神なき時代と言われる現代
巨大なネットワーク社会の中で
私たちは自分自身をいつの間にか見失い
心はよるべなく
あちるこちるを彷徨っています。

うつろいやすい私たちの心と建築のあいだには
大きな断絶があるように感じられます。
建築と体をつなぐものがヒューマンスケールであるとしたら
建築と心をつなぐものは目に見えない時間ではないでしょうか。

そこで時間に形を考え目に見えるモノとし
建築と心をつなぐ新たな空間をつくりだします。

人の死によって変化していく墓地という場所は
まさに時間の集積であると言えるでしょう。
墓地という場を借りて
時間を可視化した存在として増加していく墓碑
墓碑を生み出す建築を火葬場とし
私たちの心に死の訪きだす風景を描きだします。

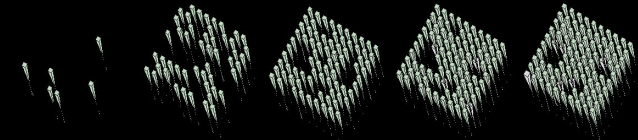
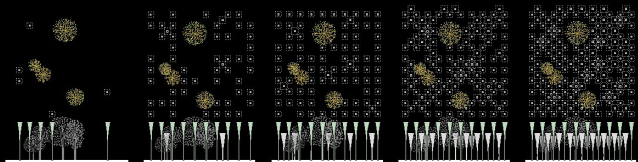
2010

2020

2030

2040

2050



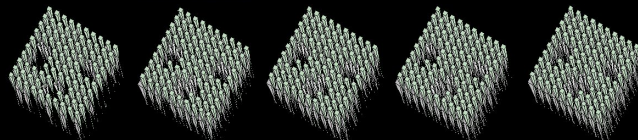
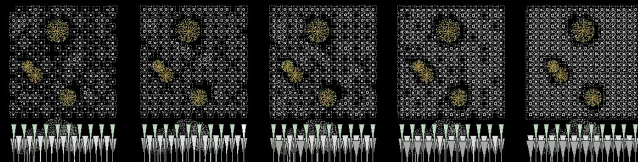
2060

2070

2080

2090

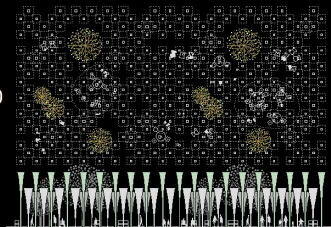
2100



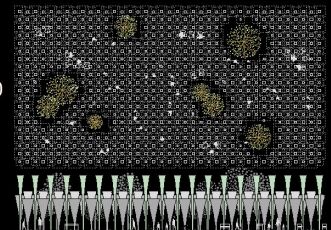
2010



2050



2100

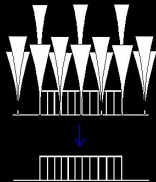


火葬場 平面 立面図

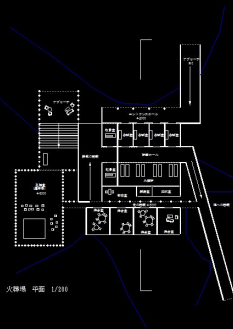


火葬場は
当地全体の中心となる施設であり
駅前の方からも静かなるに位置し
周囲に計画される。

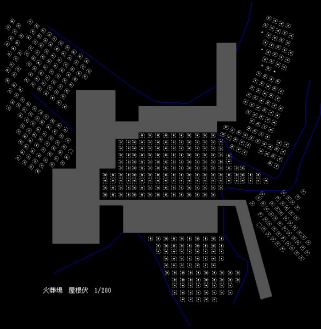
その存在は景観によって
徐々に感じられ周囲が一つ一つ
より静寂な場へと変化する。



火葬場は墓場と見られるようにひっそりと住宅街にまもられている。



火葬場 平面 1/210



火葬場 敷地伏 1/240




火葬場 断面 1/210



火葬場 立面図 1/203





建築は
私たちの音
そして自然と同じように
変化してゆく

永遠に完成することのない
死の訪きだす風景は
私たちの心に
いつまでもあり続ける

レ
ク
イ
エ
ム